

陳伊

特別
△5
66.73
71
早稲田大学図書館



安永丁酉歳且

松山

學校井連中



去光の言をきく
はまのけしきも
よはしき

杯を飲む

うららのきり

こころを

杯

三物

ふくねのきり
あしきり

やばしき

茶

あしきり

和夕

うらむしき

至末

各賀

あしきり
うらむしき

おのほしき
あしきり
うらむしき
あしきり

民衆

和夕

下宿

水珠のたまらなく一川
かたじけなく流るるの音も
まじりてくさくさうやうやう
まじりてくさくさうやうやう
初来風や起るは亦まじりて
ちぎらふおひぬも程やあやう
了してそよ風もあやうやう
さうりよけは朝の初来風
座よりまじりてくさくさうやう
明後かきくさくさうやう

左川

枕を

丹指

躰を

若那

涼字

親見

若牛

友々

至赤

限ふ程かかすめを居候も
あつむのまじりてくさくさう
遠休の自れあはれえん
あつむのまじりてくさくさう

しん花

あつむのまじりてくさくさう

申
つねさる

能力あはれはねあむさ
限はあはれは例のまじり
りしきくねさる

躰を

海をまじりてくさくさう
あつむのまじりてくさくさう
みじりてくさくさう

野麦

若那

若牛

活てまじりてくさくさう

夕暮る中、庭の月影に
 神みこし一むむはるかに
 清浦に懐く家のそとく
 さらしきまきとまのまき
 飲ま中ぬかは新ねも酒は
 まもるくもまよふ月影
 ちりりしむかかまきわ
 四のきくしーの目まき
 すほゆまおしなまきと合ま
 まはるかまきと神まき
 二抄ミ抄減まハ清子
 友ミ
 夕短言り一順
 和夕
 芦邦
 桃
 親見
 民
 飛橋
 下
 左川
 茶
 涼亭
 至
 友

四時のくかりりあり
 所作のまき一はふ
 まきこのま
 まきとまき
 至園樓

かなはみ経小まのまき
 清浦に懐く家のそとく
 鬼のまき
 拾つねぬまき
 まき
 至園樓

